意見の概要および市の考え方（彦根市総合計画中期基本計画）

＜全体＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	各施策の指標が全体的に事業のアウトプット指標（結果）になっていますが、可能ならばできるだけアウトカム指標（成果）にするべきだと考えます。	1件	無	各施策の指標については、中期基本計画の終期である4年後（令和11年度）における目標の達成状況を測るための成果指標として設定しており、原則としてアウトカム指標となるよう整理しています。その上で、4年後の目標を適切に把握できる指標を設定しています。 指標の設定に当たっては、前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、各個別計画の指標との整合を図るとともに、これまでの総合政策の評価・検証の過程で総合政策推進協議会の外部委員からいただいたご意見も反映しています。 また、指標は可能な限り定量的な数値や定性的な方向性に基づき設定していますが、施策の性質によっては成果を直接的に数値で把握することが難しいものもあります。このため、すべての施策について明確なアウトカム指標を設定できるものではなく、一定の抽象度を持った目標設定としている場合があります。 さらに、指標は市として継続的に把握可能なものを基本としており、新たにアンケートや調査等の実施を前提とするものは設定していないことから、結果としてアウトプットに近い指標となっているものもありますが、計画の進捗管理として実効性のある指標となるよう整理しています。

＜総合戦略としての基本目標＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標：令和 11 年人口　115000 人を目標に。人口を増やさないと夢がない。豊郷町との合併等。	1 件	無	人口の目標値については、国立社会保障・人口問題研究所が公表する「将来人口推計」を基礎とし、出生数の減少傾向などを踏まえ、人口推計に即した現実的な水準を設定しています。人口の増加は重要な課題であり、全庁を挙げて取り組んでまいりますが、希望的な数値ではなく、持続可能な行政運営の観点から、現実的な見通しに基づく目標設定が必要であると考えています。 なお、近隣自治体との合併等については、現在検討しておらず、また、相手自治体の意向や住民合意など多くの課題を伴う事項であり、本計画の人口目標の前提とはしていません。今後も広域連携を含め、地域の活性化に向けた取組を進めてまいります。
2	指標として年少人口割合があるが、目標値が基準値より低くなっている。上の年間出生数は目標値が増加しているが、その整合性を示すべきではないか。	1 件	無	年少人口割合は、年少人口を総人口で割った値であり、直近の出生数の増減だけで決まるものではなく、人口構成全体の変化の影響を受けます。本市においては、過去の出生数の減少の影響による年少人口の縮小傾向が続くことから、新たに生まれる子どもの数が増加したとしても、年少人口全体を大きく押し上げるまでには至らない状況にあります。 以上のことから、年間出生数の増加と年少人口割合の目標値が基準値を下回ることは、人口構造の推移を踏まえたものであり、指標間に矛盾はありません。
3	指標の社会増減数も基準値より目標値が小さくなっているが、これでは彦根市への移住を進めるという取組の積極性を感じないが	1 件	無	社会増減数については、令和 6 年度の基準値よりは少ないものの、直近 5 年間の平均値（約 21 人）と比較

	これよいのか。			して高い水準を設定しており、人口流出の抑制や転入促進を図る高い目標としています。

＜1-1-1 人権尊重のまちづくりの推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標は研修会等の開催回数となっているが、これは単なるアウトプットであり、本来の事業目的である人権尊重意識の向上に繋がっているのか不明である。市民への人権に関するアンケート調査などを実施し、どれほど市民意識が向上したかを示す指標（アウトカムの指標） にすべきはないか。	1件	無	内閣府や本市の過去の調査では、啓発機会への接触回数が多いほど人権課題への理解が深いという相関が確認されています。研修回数は、市民が人権尊重に関する正しい知識や多角的な視点を得るための不可欠な指標です。また、地域や企業が主体的に研修会を開催することも、身近な場での意識向上に資する重要なプロセスです。この着実な積み重ねにより意識向上の基盤を構築するため現行の指標としています。
2	主な取組の中で、近年のインターネット上での誹謗中傷や差別、人権侵害に対する取組を記載すべきではないか。	1件	無	「2. 人権擁護の充実」における「人権侵害等」には、ネット上の問題を含め、社会情勢に伴い多様化するあらゆる人権課題を包含しております。個別事案を列挙せず包括的に表現することで、特定の課題に限定することなく、変化し続ける様々な人権侵害に対して、国や関係機関と連携し機動的に対応していく考えです。

＜1-1-2 男女共同参画社会づくりの推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題の中で一つ目と二つ目の説明文が長すぎ分かりにくい。途中で文章を区切るなどして分かりやすくすべきでは。	1件	無	当該箇所については、課題や計画の基本目標を列記したものとなっておりますので、原案のとおりとします。いただいたご意見は、今後の計画策定の参考とさせていただきます。

＜1-1-3 多文化共生のまちづくりの推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標について登録者数ではなく、めざす姿にどれだけ近づいているかが示せるような指標を考えるべきではないか。	1件	無	多文化共生サポーターは、国籍や民族の異なる人々が文化的違いを認め合い、地域の構成員として共に生きていく社会を形成するための事業において、積極的にボランティア活動に参加する方々であり、様々な国籍の方に登録いただいています。地域のために自らが動こうとする市民の主体性を示しているものであることから、現行の指標としています。

＜1-1-4 国際交流の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標について、4年間で15人増えているが、この程度の増加でめざすべき姿や4年後の目標が達成できるのか。	1件	無	指標は、市民が実際に現地を訪問し、対面で交流する機会を確保するという観点から、引き続き重要であると捉えており、設定をしています。一方で、社会情勢や経済状況など外的要因の影響を受けやすい指標であることも踏まえ、過去実績と今後の見通しを勘案して目標値を定めています。 なお、国際親善や市民の国際感覚の向上といった成果については、参加人数に加え、交流の内容や継続性なども踏まえ、総合的に評価してまいります。
2	2の中国湘潭市交流事業は、現在日本と中国の関係が上手くいってない中で可能なのか。	1件	無	国際情勢の影響はありますが、交流を継続することは、市民同士の理解や信頼を将来につなげる意義があると考えています。 なお、実施に際しては、状況を踏まえ、慎重に判断してまいります。

＜1-2-1 健康づくりの推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に現状の課題の一つである本市の 3 大死亡原因による死亡者数を減少させる基準値と目標値を加えてはどうか。	1 件	無	指標の設定に当たっては、前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、個別計画である「ひこね元気計画 21（第 4 次)」の指標との整合を図っております。 3 大死亡原因による死亡者数を減少させる基準値と目標値につきまして、心疾患や脳血管疾患は、生活習慣に起因して発症することから、「特定健康診査受診率」および「特定保健指導実施率」や「メタボリックシンドロームの該当者（および予備軍）の割合」を指標としております。また、がんにつきましても、発症には喫煙や飲酒、食生活、運動不足などの生活習慣が深く関与していると言われていることから、さきに述べました指標を設定しております。

＜1-2-2 地域福祉体制・生活支援体制の充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標が単にアウトプットであり、アウトカム指標になっていない。主な取組によってめざすべき地域福祉体制や生活支援体制が構築できたかを市民が実感できる指標を考えるべきではないか。	1 件	無	本施策の指標の設定に当たっては、前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、個別計画である第 3 次彦根市地域福祉計画の指標との整合を図っております。 ご指摘いただいた点について、一つ目の指標は「4 年後の目標」の二つ目の目標に対して、二つ目の指標は同じく四つ目の目標に対して、それぞれ取り組んだ成果を示すアウトカム指標であると考えております。

				一方で、4年後の目標に挙げている「包括的支援体制の整備」については評価指標を設定しておりません。ご指摘いただいたような「地域福祉体制や生活支援体制が構築できたかを市民が実感できる指標」としては、例えば、「相談件数」や「重複した課題を抱えた人への支援件数」が考えられます。しかし、こういった指標については、相談件数が少ない理由が、例えば、地域福祉体制や生活支援体制を構築し、相談体制が充実していることによるものなのか、逆に、充実していないことによるものなのか、判断がつかず、その指標の解釈は容易ではありません。 「体制の構築に対する市民の満足度」を直接的に把握する方法としては、市民へのアンケート調査が考えられますが、アンケートの設計や実施方法によっては実態を正確に反映できないこともあるため、これにかかる指標の設定は難しいと考えております。 なお、個別計画では82の取組の評価指標を設定しており、これらの指標を経年的に追うことで、一定の変化を観察し、その背景を分析することにより、「地域福祉体制や生活支援体制の構築」への取組の見直しに反映させてまいります。

＜1-2-3 障害者(児)福祉の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題について全体的に一つの文章が長すぎる。より簡潔に短い文章で示すべきではないか。	1件	無	ご指摘のとおり、「現状と課題」の記述につきまして、内容が多岐にわたり一文が長くなっている部分がござ

				います。 　これは、本施策については、1つのカテゴリに複数の事柄が含まれることから、それぞれの事柄を説明するに当たり、できる限り正確に記述するようにしたためです。 　なお、いただいたご意見は、次期計画策定の際の参考とさせていただきます。
2	指標に障害のある人やその家族が、めざすべき姿に記載のある、「安心で安全な彦根になっている。」と感じる割合を加えるべきではないか。	1件	無	本施策の指標の設定に当たっては、前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、個別計画であるひこね障害者まちづくりプラン2024の指標との整合を図っております。 　ご指摘いただいた点について、この施策で設定している2つの指標は、4年後の目標に対するアウトカム指標であると考えております。 　ご指摘いただいたような「安心で安全な彦根になっている。」と感じる割合」を直接的に把握する方法としては、市民へのアンケート調査が考えられますが、アンケートの設計や実施方法によっては実態を正確に反映できないこともあるため、これにかかる指標の設定は難しいと考えております。 　このため、本施策では、現状と課題を踏まえ、客観的かつ継続的に把握・検証が可能なものを指標として設定しているところです。 　なお、個別計画では8つの数値目標と21の成果目標を設定しており、これらの指標を経年的に追うことで、一定の変化を観察し、その背景を分析することにより、

				「安心で安全な彦根になっている」よう、それぞれの取組の見直しに反映させてまいります。

＜1-2-4 高齢者福祉の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に高齢者が、めざすべき姿に記載のある、「安心して暮らし続けられるまちになっている。」と感じる割合を加えるべきではないか。	1件	無	本施策の指標の設定に当たっては、前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、個別計画である第 9 期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の指標との整合を図っております。 ご指摘いただきました、「高齢者福祉の推進」のめざす姿である「安心して暮らし続けられるまちになっている。」と感じる割合を直接的に把握する方法としては、市民へのアンケート調査が考えられます。現在、本市では第 10 期の個別計画策定に向けて、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」および「在宅介護実態調査」を実施し、分析をしているところです。 しかし、これらの調査は、市民のニーズや介護の実態を捉えて施策に反映させる調査であることから、アウトカム指標には適さないと考えます。 このため、本施策では、現状と課題を踏まえ、客観的かつ継続的に把握・検証が可能なものを指標として設定しているところです。 なお、個別計画では 38 の事業・取組の評価指標を設定しており、これらの指標を経年的に追うことで、一定の変化を観察し、その背景を分析することにより、「高齢者が安心して暮らし続けられるまちになっている」

				よう、それぞれの取組の見直しに反映させてまいります。

＜1-2-6 生涯学習・社会教育の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に、めざすべき姿や 4 年後の目標にある圏域内の図書館ネットワークの構築についての進捗度合いを加えてはどうか。	1 件	無	圏域内図書館相互のネットワーク構築の取組については、「湖東定住自立圏の形成に関する協定書」において、「圏域内図書館における相互利用のため、図書館資料の物流などの多様なネットワークを構築するとともに、拠点図書館を整備することにより、圏域住民の誰もがどこでも利用しやすい図書館サービスの環境整備を推進する。」としています。しかしながら、拠点図書館の整備については、本市の財政状況が改善するまで延伸することとしており、現時点で明確な時期を示すことができないため、圏域内の図書館ネットワークの構築の進捗度合いについての指標の設定は難しいと考えます。
2	湖東定住自立圏域図書館ネットワークの構築について、長年取り組まれているが全く進んでいない。各市町のやる気さえあれば現在のデジタル社会においてネットワーク構築はすぐに出来るのではないか。明確な構築時期を明らかにして取り組むべきではないか。	1 件	無	圏域内図書館相互のネットワーク構築の取組については、１に記載のとおりです。 現状において相互利用を行った場合、本市の図書館が北部に１館のみであるため、本市の中南部地域からの利用者が 4 町の図書館に向かうこととなり、4 町の住民への貸出しが従来どおり行えなくなるという各町からの懸念や、それぞれの図書館の受入れ体制にも課題があることから、現状では相互利用はできないとの意向を示されています。

				本市としましては、相互利用の実現に向けて、今後も引き続き、（仮称）図書館中部館の整備をはじめ、本市の図書館サービス体制の充実を図りつつ、湖東定住自立圏推進協議会図書館部会において、協議・調整を図ってまいります。

＜2-1-1 子ども家庭支援の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標の二つ目は、関係機関で対応した割合となっているが、対応した結果、問題や課題が解決できた割合の方が良いのではないか。	1件	無	児童虐待や困難な課題を抱える家庭の支援につきましては、問題が複合的に絡み合っていることが多いため、単年度での解決が困難なことから、指標になじまないと考えております。
2	主な取組の 3 点目で、専門資格取得の例として看護師などとされていますが、何故ひとり親家庭支援の推進の中で看護師を例としてあげられたのか。	1件	無	一定期間生活資金を支給する専門資格取得のうち、本市で実績が最も多いのが看護師であるため、例としてあげたものです。

＜2-1-2 乳幼児の保育・教育の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に、特別支援を必要とする乳幼児に対する保育士も含め、市全体として保育士の充足率を加えてはどうか。	1件	無	現行計画では「保育士不足数」を指標としておりましたが、今回の見直しではより実態を反映する別の指標を用いることとしました。保育士の配置については、特別支援加配保育士について一部の園で不足が見られるものの、在園児の年齢に応じた基準を満たしています。また、申込児童数が利用定員を下回る園もあるため、単純に利用定員に対する「充足率」を算定すると、実際には必要のない保育士数をカウントしてしまうおそれが

				あります。そのため、次期計画では保育士数の単純な充足状況を指標とするのではなく、保育士が継続して働ける職場環境づくりに重点を置き、「保育士の定年退職以外の離職率」を新たな指標として設定しました。これにより、保育士が定着し、結果として安定した保育体制の確保につながると考えています。

＜2-1-3 小学校・中学校教育の充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題の中に、県下の市町の中で遅れている取り組みとして学校体育館への空調設備導入について記載するとともに、めざす姿で空調設備が設置されていることを記載する。さらに、4年後の目標にも何校かに体育館への空調設備を導入する。さらに、主な取組に体育館空調設備の計画的導入を記載すべきではないか。	1件	無	空調設備の改修や屋上防水工事などの部位別改修のほか、学校施設の長寿命化工事、大規模改修工事など、彦根市学校施設等適正管理計画に基づく施設の整備改修は、計画的に順次実施する必要があり、ここでは具体的に個別工事を列挙していないため、修正はいたしません。
2	めざす姿の5点目、「学校規模の適正化を進め～」とあるが、現状と課題の考察と整合を取る意味でも、「適正化・適正配置が進み～」とした方が良いのではないか。	1件	無	学校規模の適正化については、将来において市内全域で検討していく課題であり、今後十数年継続する事業となることが見込まれ、引き続き進めていく必要があるため、修正はいたしません。

＜2-1-4 子ども・若者育成支援の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標の中に、発達障害のある子ども・若者に対する支援体制等に関する指標を加える必要は無いのか。	1件	無	「発達障害」の認定は他の身体、知的、精神障害に係る手帳制度がなく、あくまで医師の診断に基づくものであるため、本市として発達障害のある子ども・若者の実際の数はわかりません。発達障害および発達障害の

				疑いのある人に係る相談等は行っていますが、「発達障害」の診断を受けた人に限定されたものでなく、また、ひきこもりや不登校等に至る原因が全て「発達障害」でもありません。反対に発達障害の診断に加え、身体、知的、精神障害に係る手帳を取得されている人もおり、こうした方は手帳制度に基づいた支援を受けられている場合もあります。本市では「発達障害」は障害診断を受けられた人の支援はもちろんのこと、発達障害か否かご心配されている方等を含めて、包括的、横断的に支援体制を構築しているため、「発達障害」に特化した支援体制等に関する指標設定は難しいものがあります。

＜2-1-5 高等教育機関との連携＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	めざす姿の中に、「高等教育機関と地域が～」とあるが、地域だけと結びつくのは弱い感じがします。地域、自治体（行政）、産業とするべきではないのか。（4 年後の目標や指標にもそのような感じで記載されているため）	1 件	無	本施策は、基本構想における政策の方向性の二つ目である「子ども・若者が自分らしく輝き、学び躍動するまち」の中に位置付けており、その趣旨を踏まえ、めざす姿では、若者が地域と関わり、定着することで地域の活性化につながる姿を示しております。 また、産業との連携については、基本構想における政策の方向性の三つ目である「歴史・文化を生かし、にぎわいと特色ある産業が育つまち」の中に位置付けております。 以上のことから、めざす姿の記載は現行のとおりとします。
2	指標の、大学との連携・相互協力事業数で内容が不明確あり、もっ	1 件	無	本施策は、高等教育機関との幅広い連携の推進を目

	と個別に成果指標を考えるべきではないのか。			標としていることから、まずは連携・相互協力事業の実施状況を客観的に把握できる指標として「事業数」を設定しております。 　また、個別の事業成果については、それぞれの取組の中で把握・検証を行っており、本計画においては、全体としての連携の進展状況を継続的に把握可能な指標として整理しております。 　以上のことから、現行の指標設定のとおりとします。

＜2-1-6 若者の定住・移住の促進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	大学卒者に特典を　住宅補助等 大企業の誘致で働く魅力増進	1件	無	若い世代の定住促進や雇用の場の確保は、本市の将来にとって重要な課題であると認識しています。住宅支援については、現在、移住者を対象とした住宅取得費補助金を実施しており、引き続き若者の定住促進に取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後検討を進める上で参考とさせていただきます。 　また、企業誘致については、雇用の創出や働く場の魅力向上につながる重要な取組であると認識しており、条例改正や助成金制度の拡充などを通じて、企業が立地しやすい環境整備に努めています。引き続き、関係機関と連携しながら、地域経済の活性化と雇用機会の確保に向けた取組を推進してまいります。
2	指標の再掲分について、前述と同じ。また移住相談件数ではなく、結果として移住した件数にすべきではないか。	1件	無	本施策においては、移住希望者との接点の創出や関係構築といった取組の進捗を継続的に把握する観点から、「移住相談件数」を指標の一つとしております。

				一方で、アウトカムとして実際に移住した件数の動向を把握するための指標としては、「社会増減数」を設定しており、最終的な人口の転入・転出の結果については、当該指標により評価することとしております。 以上のことから、指標は現行のとおりとします。

＜3-1-1 世界遺産登録の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	小中高校生の彦根城現地学習を増やす 町内会も同上	1件	無	郷土の理解の深化および将来世代への継承の観点から重要であると認識しており、高校や自治会等への出前講座をより充実させるとともに教育委員会等と連携しながら小中学生の現地学習等の機会についても充実を図ってまいります。
2	交通渋滞 本気でパーク＆バスライドを実施する 松原町耕作遊休地に大規模ホテルと無料駐車場	1件	無	公共交通の充実につきましては、持続可能な観光を含むまちづくりの重要課題であり、庁内連携の上で検討を進めてまいります。 大規模ホテルと無料駐車場につきましては、民間活力の活用を含めた観光振興施策の中で検討されるべき事項ですが、彦根城の周辺景観を保全するという世界遺産の保存管理の取組および彦根市の都市計画と整合を図りながら検討する必要があります。
3	彦根城への誘客 ご城下準バス等の足を確保する　優しい彦根のイメージ増	1件	無	彦根城への誘客手法の公共交通の充実につきましては、持続可能な観光まちづくりの重要課題であり、有効性を見極めながら検討を進めてまいります。
4	観光地の魅力増やす 国宝・重要文化財の指定を増やす　他の市に比べて最近ないです	1件	無	国宝・重要文化財の指定については、文化庁の審査に基づき決定されるものです。市としては調査研究の充

				実および保存管理体制の強化を通じて、文化財の価値向上に努めてまいります。
5	開国記念館の魅力を増やして入場有料化	1件	無	開国記念館の活用については、展示内容の充実や魅力向上に努めるとともに、運営の在り方についても今後の検討課題といたします。
6	指標について、登録により何をめざすのか。例えばめざす姿にある来訪者の増加であればそれによる成果も加えるべきだし、交通対策や観光対策の成果、さらに彦根城がまちづくりの核となれば何が成果として考えられるのかも加えるべきではないか。	1件	無	世界遺産登録の推進にあたり、登録自体を目的とするのではなく、その先にある本市の持続可能な発展を目指すことが重要であると認識しております。 ご指摘のとおり、来訪者の増加のみならず、交通対策の充実、観光消費額の向上、地域経済の活性化、市民の郷土への誇りの醸成、文化財保護体制の強化など、登録を契機とした波及効果を指標として整理することは有意義であると考えておりますが、本事業は世界遺産登録を推進するための取組であり、複数分野に及ぶ登録による効果は、それらの関連分野の成果指標に反映されると考えます。成果指標の在り方については庁内関係部局と連携し、多角的な視点から確認にしていくことになると考えます。

＜3-1-2 歴史文化遺産の保存・活用・共生の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標について、主な取組によってどのような成果を期待しているのかに着目し検討し直すべきでないか。特に、件数や事業数では単なる結果でしかないので、もっと成果に着目すべきてはないか。	1件	無	ご指摘のとおり、取組の結果を質的な変化や市民満足感などの成果で把握することは有効な視点であると考えます。しかしながら、その感じ方や評価は、個人の主観に左右されやすく、施策との因果関係の整理が難しい面もありますことから、本指標の設定に当たって

				は、計画の進捗を定量的に把握しやすいことや、継続的にデータを収集できることを重視し、件数等の指標も用いています。 　なお、本市では、文化財の保全に留まらず、文化財を利活用した新たな財源確保やまちの新たな魅力の発見・発信に繋がる取組を積極的に進めており、これらの指標により、取組の実施状況を継続的に確認し、着実な推進を図ってまいりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

＜3-1-3 景観形成の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	佐和山城跡のイメージ up 記念館を井伊神社境内に造る 井伊神社の有料公開	1 件	無	佐和山城跡は、本市における戦国時代の貴重な歴史遺産として重要な城跡であり、これまで測量調査やガイドブック作成を通じて、その価値の向上に努めています。さらに、令和 7 年 4 月に改定しました彦根市景観計画では、佐和山風致景観形成地域を新たに位置付け、歴史的ならびに自然的な景観の保全と調和を基本として良好な景観の形成を推進しています。 　また、旧井伊神社は、井伊直亮により造営された権現造りの社殿であり、文化財の保存と劣化防止に配慮しつつ、毎年春と秋に無料の特別公開を実施しています。なお、記念館の建設や有料公開につきましては、費用面などの課題から現時点で実現は困難ですが、今後の取組の参考とさせていただきます。
2	指標について、めざす姿と主な取組から考えて、市民が良好な景観	1 件	無	市民が良好な景観と感じる割合など、市民が感じる

	と感じる割合や、あき町屋が有効に利活用されていると感じる市民の割合、歴史まちづくり取組によって地域の魅力が向上したと考える市民の割合などとした方が良いのではないか。			目線で施策の成果を把握する観点は有効な視点であると考えます。しかしながら、景観に対する感じ方や評価は、個人の主観に左右されやすく、施策との因果関係の整理が難しい面があります。このため、本施策では、前期基本計画に引き続き、施策の進捗状況を客観的に把握する観点から、具体的な取組項目を指標として設定しています。 なお、市民意識の把握は、大切な部分であると認識しており、各種の調査を通じて実態把握に努め、今後の景観形成の推進に生かしていきます。

＜3-1-4 文化・芸術の振興＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	単なる結果を指標とするのでは無く、そこから出る成果を指標とすべきで、例えば、地域への誇りと愛着を持つ市民の割合、新たな彦根の文化創出による市民の文化資質の向上の割合などとすべきではないか。	1件	無	文化芸術活動に取り組む市民が、日頃の活動の成果を発表する場、鑑賞できる機会の数、つまり「春・秋市文化祭協賛行事数」等を指標として設定することにより、市民の文化活動への参画状況が把握でき、市民への文化の浸透度合を確実に認識できるものと考えております。 ご指摘の「愛着を持つ市民の割合」や、「市民の文化資質の向上」と言った指標は、基準値の設定が非常に難しいと考えられます。 しかしながら、ご指摘の内容を目指す目標として掲げていくことは大事なことであり、目標実現のためのより効果的な指標設定に今後努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいた

				します。

＜3-2-1 観光の振興＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	めざす姿、4 年後の目標、指標、主な取組が彦根城周辺やひこにゃんに偏りすぎているように感じる。北部の鳥居本地域から南部の稲枝地域まで市全体について考察すべきではないか。	1 件	無	彦根城やひこにゃんについては、本市の観光資源の代表的存在であることから、特に重要な資源と位置付けて記載しているところです。 なお、本計画において、現状と課題、めざす姿、4 年後の目標、主な取組にも挙げているとおり、彦根城周辺に限らず、市内全域を捉えた形で、包括的に記載しており、周辺地域も含めた広域での観光振興を想定しております。

＜3-2-2 スポーツの振興＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	主な取組の 3 点目、競技力の向上の中て、少年野球チームの交流大会を支援するとあるが、近年はサッカーやバスケットボールなどいろいろな種目がある。少年野球だけでなく他の種目の交流支援についても記載すべきではないか。	1 件	無	競技力の向上については、少年野球だけでなく様々な競技を対象とした市民スポーツ大会の開催委託や各種大会への参加、スポーツ少年団の活動を支援するとしていることから修正は行いません。

＜3-3-1 農林水産業の振興＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	農林水産業 農林業地の重点指定育成 ①稲作は稲枝地区　②畑作は松原地区　③林業は鳥居本地区を育成	1 件	無	本市は、南部の稲枝地域を中心とした広域にわたりほ場整備等が進んでいる水田地域から、北部の鳥居本地域を中心とした中山間地域における木材の活用や森林の保護活動まで、地域の特性を生かした農林業が進

				んでいます。 市としましては、特定の地域のみを重点的に指定するのではなく、国等の補助事業も活用しながら、各地域の実情に応じた農林業の振興を図っており、新規就農者等の参入も見られるところです。 今後もこうした取り組みを継続し、地域の農林業の維持・振興に努めてまいります。
2	現状と課題において、めざす姿に記載があるが、農業を支える基盤施設の現状と課題についても記載すべきではないか。	1件	無	農業基盤施設は農業生産を支える重要な要素であると認識しており、基盤施設の整備・維持管理につきましては、個別の事業計画において現状や課題を整理し、計画的に取り組んでいるところです。 そのため、本計画への新たな記載は予定しておりませんが、引き続き事業計画に基づき適切な整備・保全を進めてまいります。
3	指標の中の新規就農者数（累計）　目標値5人で、課題が解決されめざす姿が達成できるのか。	1件	無	本計画の指標「新規就農者数（累計）5人」は、農業法人等への雇用就農ではなく、将来的に認定農業者を目指し独立経営を行う青年就農者を対象として設定しております。これらは一定の農地確保や機械・施設導入などが必要であり、毎年度多数を確保できるものではありません。 本市のこれまでの実績や担い手の確保状況、農地の集積・集約の進展状況等を総合的に勘案すると、計画期間中の累計 5 人は、現実的かつ持続可能な範囲で担い手確保を進めるための適正な目標水準であると考えております。
4	主な取組の中で、小規模農業者への取組を記載する必要はないの	1件	無	本計画の主な取組は、将来にわたり地域農業を持続

	か。			可能なものとするため、担い手への農地の集積・集約や経営の効率化を中心に位置付けております。これは、農業従事者の減少や高齢化が進む中、限られた担い手で農地を維持していく必要があることを踏まえたものです。 　一方で、小規模農業者の皆様が地域農業や農村環境の維持に重要な役割を果たしておられることは十分認識しております。本計画では方向性を担い手支援に重点化しており、小規模農業者への取組を記載する予定をしておりませんが、小規模農業者を含む地域全体で農地や農村環境を守る取組については、引き続き関係施策を通じて支援・連携を図ってまいります。

＜3-3-2 商業・工業・サービス業の振興＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題の一番目と三番目の文章が読みにくいので、句読点を上手く使って分かりやすい文章にして欲しい。めざす姿も同じように分かりやすい文章にして欲しい。	1件	無	ご指摘の箇所につきましては、社会経済情勢の変化や産業を取り巻く課題を漏れなく示す観点から、関連する要素を一連の文章として整理しております。
2	指標に 4 年後の目標である中心市街地活性化計画策定の進捗度合いや、IT 産業の集積化の状況を加えてはどうか。	1件	無	ご提案のありました「中心市街地活性化計画策定の進捗度合い」や「ＩＴ産業の集積化の状況」につきましては、いずれも重要な視点であると認識しております。しかしながら、中心市街地活性化計画については現在「策定の検討を進める」段階にあり、その進捗を客観的かつ定量的に測定する指標を現時点で設定することは困難であること、また、ＩＴ産業の集積化についても、空き店舗活用や起業支援など複数の取組の成果が中長

				期的に現れる性質のものであり、単独で適切に把握できる統一的な指標の設定が難しい状況にあります。 　このため、指標の追加につきましては、見送らせていただきますが、いただいたご意見の趣旨は十分踏まえ、今後の個別計画の策定や施策の進行管理に努めてまいります。

＜3-3-4 就労機会・就労環境の充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題の一つ目に「就職環境は厳しさを増しており～」とあるが、現状は人手不足で高校や大学の新卒者は売り手市場になっていると考えるが、その表現で間違いないのか。また、＊のあとにカッコ書きで（DX）、（学びなおし）とあるが、その他の＊のあとにはそのような記載が無いがそれて構わないのか。	1件	有	ご意見を踏まえ、国全体の動向と本市の実情がより明確に伝わるよう、表現を修正いたします。 　次に、※印の後に（ＤＸ）、（学びなおし）といった表記がある点についてですが、※印は用語解説を別途付す箇所を示すものであり、（ ）書きは、比較的新しい用語や横文字について略称や日本語表記を補足するために記載しているものです。両者は目的が異なるため、すべての※用語に（ ）書きを付しているものではありません。 　いずれも計画内容の理解を補うための表記であり、原案のとおりとさせていただきます。
2	アウトプット指標になるが、障害者の法定雇用率を達成している企業数などを加えるべきではないか。	1件	無	ご提案の「障害者の法定雇用率を達成している企業数」につきましては、障害者雇用の状況を示す指標の一つであり、重要な視点であると認識しています。しかしながら、この数値は国の制度に基づき関係機関において把握されているものであり、公表を前提とした統計として整理されているものではありません。そのため、

				市が継続的に把握し、成果指標として位置付けることは困難な状況です。 以上のことから、本計画への指標の追加につきましては、見送らせていただきますが、障害者雇用の促進は重要な課題であることから、今後も関係機関と連携し、障害者雇用推進事業所表彰の実施や事業者への啓発等を通じて、取組を進めてまいります。

＜4-1-1 持続可能な都市形成＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	商業地銀座街の活性化　道の駅を設置し賑わいを造る 古い店舗を活用し出店を造る 滋賀銀行建屋を彦根商業歴史館にする 平和堂1号店2階を憩いの場にする	1件	無	「道の駅」は、国土交通省の登録制度に基づき、駐車場や公衆トイレなどの設置に関する条件が定められています。しかしながら、本市の銀座商店街は中心市街地に位置しており、用地の制約もあることから、制度上の「道の駅」として整備することは現実的に困難です。 一方で、中心市街地のにぎわい創出は重要な課題であると認識していることから、引き続き、活性化に取り組んでまいります 古い店舗の活用による出店創出や、既存建物の活用によるにぎわいづくり（滋賀銀行建屋の活用、平和堂1号店2階の活用等）は、中心市街地の魅力向上に資する取組の一つであると認識しております。 一方で、これらの建物はいずれも民間所有の施設であり、用途の変更や改修、運営については所有者や関係者の意向が前提となることから、直ちに実施することは困難です。

				加えて、銀座商店街周辺の建物は防災街区建築物として一体的に整備されている特性があり、活性化に向けた改修や利活用を進めるためには、地権者や関係者間での方向性の共有や合意形成が重要となります。 本市としましては、これらの状況を踏まえ、中心市街地の活性化について、検討してまいります。
2	アウトプット指標になるが、地籍調査の進捗度を加えるべきではないか。さらにコンパクトシティや空家対策に関する指標を検討すべきではないか。	1件	無	本市の地籍調査は、地域の皆様（自治会等）の合意形成を前提に、要望のあった地区から順次実施しております。事業の実施にあたっては国および県の補助金の配分や事業費の確保に大きく依存することから、市が主体的に年間の進捗率をコントロールすることが困難な側面があるため、数値指標を設けるのではなく、「主な取組」として継続的な実施を明記することでその重要性を担保してまいります。 なお、コンパクトシティに関する指標については、彦根市立地適正化計画における指標と整合を図り、「市街化区域における居住誘導区域内の人口密度」として指標を設けており、「施策 4-2-1 住宅施策の推進」における空き家対策と一体的な取り組みとして進めてまいります。

＜4-1-2 公共交通ネットワークの充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に公共交通機関や乗合タクシーを利用することへの市民の満足度を加えるべきではないか。	1件	無	当該施策の「めざす姿」や「4年後の目標」を達成するための指標として、「湖東圏域の地域公共交通利用者数」を設定しております。この公共交通利用者数を増や

				すために、ご指摘の市民満足度を把握して、利用者のニーズに対応していくことは重要と考えており、湖東圏域公共交通活性化協議会では、バスやデマンドタクシーのダイヤ・路線変更時や路線バスのイベント時などにそれぞれの交通機関についてのアンケートを実施し、施策展開に活かしているところですが、圏域内の公共交通を網羅し、広く住民に向けたアンケート調査は、公共交通計画策定時などに行っている状況にあります。 　こうしたことから、基準年(令和 6 年度)における圏域の公共交通全般に関する網羅的な満足度を把握しておらず、また、令和 7 年度においても、そのようなアンケートを行っていないことから、新たに指標に加えることができかねますのでご理解をお願いします。

＜4-1-3 生活環境・自然環境の保全と創出＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に、水環境の保全・回復の度合いを示したり、エコツーリズムや自然観察会等への参加による市民の環境意識の向上を加えるべきでは無いか。	1 件	無	指標の設定に当たっては、原則として前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、個別計画である「第 3 期彦根市環境基本計画および地域行動計画」の指標との整合を図るとともに、これまでの総合政策の評価・検証の過程で総合政策推進協議会の外部委員からいただいたご意見も反映しています。 　以上のことから、指標の追加はいたしません。

＜4-2-1 住宅施策の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標の 2 点目は目標値をもう少し高めに設定できないのか。（4 年間でわずか１％の上昇しかない） また、空家戸数の削減も指標にしてはどうか。	1 件	無	管理不全な空き家については、毎年情報が寄せられます。所有者はさまざまな事情を抱え空き家をお持ちであり、是正困難な空き家も一定数は存在します。是正率は、過去の実績を踏まえ、改善にむけての助言や指導等に努め実際に是正に導ける達成可能な数値を目標値として設定しています。 空家戸数の削減は、空き家の利活用の指標として有効なものであるといえます。しかしながら、国の住宅・土地統計調査は 5 年ごとであり、彦根市独自で毎年空家戸数を調査するとすれば、多大な労力と経費を要します。このようなことから、毎年空き家の利活用が進んでいることが計測できる現実的な目標値として、空き家バンクの成約件数を指標のひとつに設定しております。

＜4-2-2 上下水道の整備・充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に、農村下水道（農業集落排水） の公共下水道への接続の進捗度合いを加えてはどうか。	1 件	無	ご意見の内容については、指標として設定している「公共下水道普及率」に農業集落排水処理施設からの接続分も算定対象として含まれているため、ここでは追加はいたしません。

＜4-2-3 公園緑地の整備＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に稲枝公園の整備に係る進捗度合いを加えてはどうか。	1件	無	稲枝公園の整備については、国の補助金の配分や事業費の確保に大きく依存することから、進捗をコントロールすることが困難な側面があり、数値指標を設けるのではなく、「主な取組」として計画を進めてまいります。

＜4-2-4 道路の整備＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	現状と課題の一つ目の三行目、「また、人口減少社会～」の文章が長いのでの、句読点を上手く使い分かりやすくすべきではないか。	1件	有	ご指摘のとおり、句読点を利用して、文章を短く修正します。
2	指標の2点目の目標値が0ということは、基準値の令和6年度では既に460橋のうち457橋が必要な措置がされているということか。少し内容が分かりにくいと感じる。また、主な取組にある無電柱化の進捗度合いも指標に加えてはどうか。	1件	無	ここでいう「早期・緊急措置が必要な橋梁」とは、定期点検の結果、早期・緊急措置が必要と判定された橋梁を指します。 本市では定期点検を継続して実施しており、令和6年度の点検結果では、対象460橋のうち、早期・緊急措置が必要と判定された橋梁は3橋となっております。令和11年度には「早期・緊急措置が必要な橋梁」が0となるよう、目標値を定めております。 無電柱化につきましては、中期基本計画期間中に無電柱化の計画が無いことから指標としては見送っております。なお、彦根市内では、国や県の事業として主要な道路で無電柱化が進められています。

＜4-3-1 危機管理対策の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	主な取組に非常用備蓄品の整備を進めるとあるが、指標に備蓄品の整備率を加える必要はないか。(既に 100%の整備率であれば必要ないと思うが)	1 件	無	備蓄品の整備率については、最近の国の基準の変更などにより、目標となる備蓄量についても変動する可能性が高いなど、指標としての安定性に欠けることから、総合計画の指標には採用しませんが、引き続き、市ホームページ等において、市の備蓄品の一覧を公開するなど、市民にも市の備蓄状況が確認できるようにするとともに、各家庭での備蓄についても啓発を行い、市民の安全安心につながるように努めます。

＜4-3-4 生活者の保護・安全対策の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	めざす姿の中に、インターネットや SNS に関する記述をする必要はないか。	1 件	無	本項の「めざす姿」では、特定の手段を明示するのではなく、インターネットや SNS を含めた様々な情報発信や啓発活動により市民が安全・安心に暮らせる状態を示す表現として、現行の記載を基本とします。 近年、インターネットや SNS による消費者被害や犯罪被害のリスクが高まっており、「現状と課題」や「4 年後の目標」、「主な取組」の中で整理して記載しています。
2	指標の中に、安心で安全な彦根市だと感じる市民の割合を加えるべきではないか。	1 件	無	ご意見を踏まえ検討しましたが、「安心で安全な彦根市だと感じる市民の割合」については、個人の受け止め方やその時々の社会状況などにより左右されやすく、継続的・客観的に把握する指標として整理することが難しい側面があります。

				本計画では、施策の進捗や成果を客観的に確認できる指標を設定することを基本としており、こうした考え方のもと、犯罪発生状況等の数値指標を用いて状況を把握していくこととしていることから、現行の指標構成とします。

＜4-3-5 交通安全対策の推進＞

意見の概要		意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標は一つでよいのか。ほかにも交通安全教室開催に関する指標や、ドライバーが横断歩道で歩行者のため一旦停止する割合など加えてはどうか。	1件	無	交通政策課では、湖東圏域1市4町、警察など関係機関と連携し、様々な年代に対して、交通安全に関する知識の普及を図るため、交通安全教室などを開催しています。ご指摘の交通安全教室に関する指標については、開催回数や理解度・満足度などが考えられますが、年度により教室開催についての要望数の想定が難しく、また、開催主体間の調整も必要となります事から年次的な開催回数の目標を設定することが困難です。また、理解度・満足度については、年代ごとに開催内容や目標も違うため、統一した理解度・満足度などを設定することが困難であり、基準年度(令和6年度)、令和7年度のデータを持ち合わせておりません。 ドライバーによる横断歩道での一旦停止の割合につきましては、これまで市において調査の実績がなく、基準年度、令和7年度のデータを持ち合わせておらず、民間において「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査」がされておりますが、調査地点が各都道府県2箇所ずつで、場所が非公

				表となっており、本市の状況が不明であります。 　こうしたことから、指標については、アウトカム指標である現行の「交通事故による死傷者数」により進捗管理を行っていきたいと考えております。 　いずれにいたしましても、交通安全教室につきましては、内容に工夫を凝らしまして、一層の交通安全に関する知識の普及を、ドライバーの安全運転につきましては、街頭啓発等により周知啓発を進めてまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いします。

＜5-1-1 情報発信の充実＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標の内容が分かりにくい。WEB で閲覧する人の数や、市民への取材記事にしての市内外からの反応の数などとすればどうか。（フェイスブックのいいねの数のように）	1 件	無	ご指摘のとおり、WEB 閲覧数や SNS 上での反応数などは、市民や市外の方々の関心や広がりを把握するうえで有効な視点であると認識しています。 　一方で、本指標においては、市が主体的・継続的に情報発信や市民取材に取り組む体制が確保されているかを把握するための活動指標として、「WEB 掲載記事数」や「市民への取材記事掲載数」を設定しています。 　SNS 等の反応指標については、閲覧者の行動変化や投稿時間など、投稿内容以外の条件によって数値が左右されやすいため、取組の実施状況を測る指標としては採用していませんが、より効果的な広報となるよう引き続き注視していきます。

＜5-2-1 交流人口・関係人口・定住人口増加策の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に交流人口や関係人口の増加を加えてはどうか。また、ふるさと納税寄附者数に加え、寄附額も指標にしてはどうか。	1件	無	交流人口および関係人口については、代表的な指標として「市内観光入込客数」および「ふるさと納税寄附者数」を設定しております。 また、本施策は財源確保そのものを主目的とするのではなく、本市と継続的に関わりを持つ人の裾野を広げることを重視していることから、ふるさと納税については寄附額ではなく寄附者数を指標としております。 このため、現行の指標設定のとおりとします。

＜5-2-2 広域連携の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	主な取組が16項目もあるのに、指標が湖東圏域の人口に一つだけでは、広域連携の推進がどのように進んでいるのか分からない。主な取組ごとに何らかの指標を加えるべきは無いか。（個別の取組で重複するものもあるかもしれないが）	1件	無	本施策における4年後の目標は、「圏域の活性化を図るとともに、圏域外から人を呼び込み、定住人口の確保と交流人口の増加をめざします」としており、その達成状況を総合的に測る指標として圏域の人口を設定しているものです。 なお、個別の取組ごとのKPIについては、「湖東定住自立圏共生ビジョン」および関連する個別計画において具体的に定めております。 このことから、本計画における指標は現行のとおりとします。

＜5-2-3 行財政改革の推進＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標に魅力ある地方創生事業の立案数や、職員の満足度、人材育成の度合い、市民サービスの充実度や行政サービスに対する市民の満足度を加えてはどうか。	1件	無	指標の設定に当たっては、原則として前期基本計画の指標を引き継ぐことを基本としつつ、各個別計画の指標との整合を図るとともに、これまでの総合政策の評価・検証の過程で総合政策推進協議会の外部委員からいただいたご意見も反映しています。 このため、今回の追加指標のご提案は大変有益なご意見の一つではありますが、修正反映までは考えておりません。

＜5-2-4 総合計画の推進と社会変化への対応＞

	意見の概要	意見数	修正の有無	市の考え方
1	指標が単に人口になっているが、施策と合致しないように感じる。総合計画やSDGsの推進により、市民一人ひとり輝くまちになったと感じる市民の割合や、市民生活の維持向上が進んでいると感じる市民の割合とすべきではないか。	1件	無	本施策は個別分野を横断して市政全体を総合的に推進するものであることから、その成果は最終的に人口の維持・確保という形で総体的に現れるものと捉え、指標として人口を設定しております。 なお、指標の設定に当たっては、前期基本計画からの継続性や、外部委員の意見等も踏まえて整理しており、新たな調査の実施を前提としない、継続的に把握可能な指標を基本としております。 以上のことから、現行の指標設定のとおりとします。